

【学校図書館&授業づくりのヒント 12ヶ月： 6月 ② 道徳の時間の教材にお薦めの本・紙芝居】

「道徳 教科化に伴う評価 内申書に記載せず」-新聞記事のタイトルです(18日朝日新聞13版)。文部科学省がホームページに公表した文書を取り上げ、道徳は「教科書や評価がなく、他教科に比べて軽視されがち」として、「考え、議論する道徳」への転換を明示していると記されています。絵本や紙芝居は、まさに議論に適した教材といえます。

○ 小学校低学年～ 絵本

『けんかともだち』丘修三 / 作

長谷川知子 / 絵 鈴木出版

積み木遊びをしていたつよしと
かんたが、けんかの末に絶交宣言。



でも大丈夫、あることから仲直り…。迫力ある絵が話し合いを後押しします。

○ 小学校中学年～ 科学絵本

『ホッキョクグマくん、だいじょうぶ？
北極の氷はなぜとける』



ロバート・E・ウェルズ / 作 せなあいこ / 訳 評論社

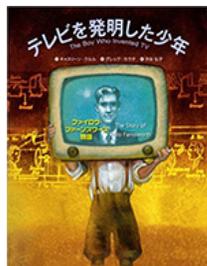
北極の温度が少しずつあがっていて、流氷も小さくなると、ホッキョクグマがアザラシをとるのがむずかしくなると… たくさんの？があり、環境問題を考える教材になります。

○ 小学校高学年～ 伝記絵本

『テレビを発明した少年』キャスリーン

・クルル / 文 グレグ・カウチ / 絵

渋谷弘子 / 訳 さ・え・ら書房



100年ほど前のアメリカ西部の話。貧しい農家に生まれた少年は、機械に興味を持ち、疑問を解決し、ついにはテレビジョンを発明、22歳の時だった…。

次に、紙芝居を紹介します。童心社からの発行です。

○ 小学校低学年～

『ねこのおかあさん』

渡辺享子 / 脚本・絵

ビルが火事になりま

した。中には猫の親子が。

子猫を助けようと、激しい炎の中に飛び込んでいくお母さん猫…。実話に基づいて作られた紙芝居です。



○ 小学校中学年～

『二度と』

松井エイコ / 脚本・絵

小川虎彦他 / 写真

広島・長崎に投下さ

れた原爆。その悲惨さをシンプルな言葉や絵、写真で訴えます。「ノーモア、ヒロシマ」「ノーモア、ナガサキ」と繰り返されるフレーズが、聞き手の心に沁み込んでいきます。



お薦めの絵本も紙芝居もまだまだあります。司書教諭や学校司書に相談してみてもいいかもしれません。

東京学芸大学 デジ読評価プロジェクト

特命教授 對崎奈美子

